



### 関の古碑群【県史跡】1

関の杉の傍らに所在する板碑形式の供養碑42基。同地や近郷に散在していた板碑を集めたものとされます。南北朝時代の年号や、「阿部是阿」「安倍季□」などが刻まれた資料から安藤氏関係の板碑と考えられています。



### ■関の杉【県天然記念物】

安藤氏内乱の舞台となった西浜折曾関にあるスギの木。推定樹齢1000年・樹高約35m・幹周704.。水薨を伏せたような樹形から「薨杉」、あるいは「亀杉」と称されます。平成11年(1999)根元から14世紀中頃の瀬戸製蔵骨器が出土しました。



### 西浜折曾の関2

日本海に臨む中世城館。諏訪大社の縁起を記した「諏訪大明神絵詞」によれば、安藤氏の内乱の際、安藤季久あるいは安藤季長のいづれかが「抛った場所と伝えられます。関集落背後の段丘上に広がり、「大館」「古館」「陣森」から構成されます。陣森の一角に、「北金ヶ沢のイチョウ(国天然記念物)」「関の杉(青森県天然記念物)」「関の古碑群(県史跡)」があるほか、平成11年(1999)には関の杉根元から、瀬戸焼の蔵骨器が出土しました。

### 北金ヶ沢のイチョウ【県天然記念物】3

南北朝時代、金井安倍氏の菩提寺別院の記念樹として植えられたと伝えられるイチョウの巨木。推定樹齢1000年・樹高30m・幹周1945cm。母乳が出るようになる神木「垂乳根のイチョウ」としても知られます。



### 千畳敷4

#### ■千畳敷追分石

天保14年(1843)金井ヶ沢村(北金ヶ沢)庄屋が建立した道しるべ。「左深浦通 右大戸瀬(千畳敷)」の文字が刻まれています。



#### ■太宰治文学碑5

平成5年(1993)千畳敷海岸隆起生誕200年を記念して建立されました。碑文は、太宰治の小説『津軽』より同海岸の奇勝を描写した部分が記されています。千畳敷海岸は、寛政4年(1792)地震に伴う隆起によって形成されました。

### 松林山浄念寺6

真宗大谷派寺院。本尊阿弥陀如来。専徳寺(弘前)2世祐了の弟子祐心が、天文11年(1542)赤石村(鯉ヶ沢)より移転して草創と伝えられます。天正年間(1573~92)現在地に移転しました。境内に中世の板碑が1基あり、吾妻沢付近の吾妻館跡から移したものと伝えられます。



### 深浦山宝泉寺7

曹洞宗寺院。本尊釈迦如来像。天正2年(1574)儀道が創立とも、常源寺(弘前)2世體岩道開山とも伝えられます。境内に金毘羅堂・芭蕉塚などがあります。芭蕉塚は千鳥塚とも称され、俳人竹越里圭らが明和4年(1767)芭蕉の忌日を祈念して建立したものです。



### 亀井山荘厳寺8

浄土宗寺院。本尊阿弥陀仏。関村(深浦)にあった安倍氏菩提寺を、寛永9年(1632)現在地に移転、開山良蒙、転入山を号したと伝えられます。一説には、永禄元年(1558)廓存が草創、亀井山を号したともされます。天明3年(1783)大飢饉の際、荘厳寺住職関友は、



農民の窮状を救うため江戸へ赴き、7代藩主信寧に直訴、救援米を下賜されましたが、僧侶にあるまじき仕業をしたとの理由で同寺を追放、秋田領能代の五智如来堂に身を隠し、世を去ったとされます。

### 見入山観音堂9

津軽三十三観音第9番札所。本尊如意輪観音。追良瀬川溪流にそびえる岩山の断崖の洞窟に建てられていることから、「おやまの飛び観音」とも称されます。康永3年(1344)創立とも、智澄大師創建とも伝えられますが、詳細は不明です。不動堂・惣染堂・毘沙門堂・吉祥天堂・稲荷宮・薬師堂・山神宮・地藏堂も祀られています。



### 深浦町奉行所・御仮屋跡10

深浦湊の管理や治安維持を司る町奉行所ならびに藩主巡行の際の休憩所・宿泊所である御仮屋跡。深浦湊北東の台地上に位置します。町奉行所には、町奉行2人、町同心警固・町同心・町年寄共11人、勤番目付1人ほかが配置されました。御仮屋は、文化3年(1806)一月ほど逗留した9代藩主寧親が、酒興に乗じ「無為」の二文字を大書し、掲額させたことから「無為館」とも称されます。



### 深浦町歴史民俗資料館・美術館11

昭和55年(1980)深浦港を望む猿神鼻洞門の一角に開館。北前交易で栄えた近世深浦湊の歴史を中心に、考古資料・民俗資料を展示。平成18年(2006)に開館した美術館では、県内で活躍する作家や深浦出身の画家の絵画・彫刻等を紹介しています。開館時間 8:30~17:00(入館は16:30まで)／休館日 4月~10月無休、11月~3月月曜日(祝日の場合その翌日、年末年始(12/28日~1月3日)／観覧料 一般300円、高・大学生200円、小・中学生100円／TEL0173-74-3882



### 深浦湊12

日本海海運の要港、北前船の寄港地・風待湊。青森湊・鯉ヶ沢湊・十三湊とともに四浦と称され、町奉行・沖横目ほか、深浦御蔵・湊番所・遠見番所などの施設が置かれました。湊近くの円覚寺は、古くから船乗りの信仰を集め、多数の船絵馬・髷額が奉納されており、かつての賑わいを今に伝えています。

### 春光山円覚寺13

真言宗醍醐派寺院。本尊十一面観音(秘仏)。古くから瀨口観音堂と称され、津軽三十三観音第10番札所としても知られます。大同2年(807)坂上田村麻呂が創立した観音堂を、貞観年間(859~877)大和国修験者円覚が中興、永正3年(1506)葛西木庭袋伊予守頼清が再興したとも伝えられます。江戸時代には、弘前藩代々の藩主から祈祷所として崇敬され、保護が加えられました。また、西廻海運の船主・船頭の信仰も集め、航海安全祈願の船絵馬が多数奉納されています。国重要有形民俗文化財「奉納海上信仰資料」・国重文「薬師堂内厨子」ほか、多数の文化財を所蔵しています。



#### ■円覚寺薬師堂内厨子【国重文】

禅宗様式で造られた板葺入母屋の建築型厨子。嘉祥年間(848~51)鎮守府將軍藤原基衡が寄進したとの伝承もありますが、至徳2年(1385)銘の伝薬師堂鰐口、永正3年(1506)記年の厨子覆堂棟札の存在などから、室町時代頃の建造と推定されています。

#### ■円覚寺鰐口 至徳二年銘【県重宝】

円覚寺薬師瑠璃堂に吊られていた鑄銅製鰐口。「至徳二年(1385)六月二十四日 大タム那」の銘文が見られることから、南北朝時代の製作と考えられます。



#### ■円覚寺奉納海上信仰資料【国重要有形民俗文化財】

江戸時代中期から明治にかけて奉納された106点の信仰資料群。北前船の船主や船頭が海上の無事を祈って奉納した船絵馬や、難破して助命を祈り無事に助かった船頭たちがお礼に髷を切って奉納した髷額などが見られます。



#### ■円覚寺絹本着色聖宝僧【県重宝】

正嵯峨天皇の帰依を受けて真言宗醍醐寺(京都)を創建した聖宝僧正(832~909)肖像。鎌倉~南北朝時代の制作が推定されています。

#### ■円覚寺薬師堂仏像群

円覚寺薬師堂や宝物殿に安置されている仏像群。本尊地藏菩薩立像をはじめ、破損摩耗が進行していますが、中世に遡る造像が推定されています。

#### ■電灯の杉・宝篋印塔

円覚寺境内に立つ老杉。推定樹齢300年以上・樹高30m・幹周740cm。海上が荒れた日に、梢に不思議な明りを灯し、遭難した船を深浦湊に誘ったと伝えられます。深浦町天然記念物に指定されています。

#### ■円覚寺奉納海上信仰資料収蔵庫(寺宝館)

昭和62年(1987)開館。国重要有形民俗文化財「円覚寺奉納海上信仰資料(船絵馬・髷額)」をはじめ、国重要文化財「薬師堂内厨子」ほか寺に伝わる仏像・寺宝、「古伊万里」「蝦夷銘」など北前船関連資料などを展示しています。開館時間 4月~11月 8:00~17:00、12月~3月 8:00~16:00/休館日 なし(臨時休あり)／観覧料 大人400円、高校生250円、小中生100円／TEL0173-74-2029



### 風待ち館14

平成17年(2005)開館。北前船の風待ち湊として栄えた深浦地域を紹介しています。1階は北前船に関する展示、2階部分は伊万里焼の展示室となっています。開館時間 9:00~17:00/休館日 なし/観覧料 一般300円、高校・大学生200円、小・中学生100円/TEL0173-74-3553



### 日和見山15



#### 「太宰の宿」ふかうら文学館

小説家太宰治、歌人大町桂月、俳人成田千空の3人の作品を中心に、深浦にゆかりのある文人たちを紹介。建物は太宰が宿泊した旧秋田屋旅館を改築したもので、「太宰宿泊の間」では、当時の様子とともに書簡なども公開されています。開館時間 8:30~17:00、ただし2階展示室は9:00~16:00/休館日 4月~10月 無休、11月~3月 月曜日(祝日の場合その翌日、年末年始(12/28~1/3)／観覧料 一般300円、高校・大学生200円、小・中学生100円/TEL0173-84-1070



### 神明宮17

祭神天照大日■命・伊弉諾命・伊弉冊命。寛永11年(1634)2代藩主津軽信枚が、海上安全と国中安泰祈願のため、吾妻川を1kmほど遡った吾妻館跡に勧請したのが始まりと伝えられます。元禄11年(1698)熊野宮を合祀し現在地に移転、4代藩主信政が鳥居と石橋を寄進したとされます。境内には、北前船にも積み込ま



れた湧水「トヨの水」があります。

### 元城跡18

深浦湊の南方500m、六角沢と亡の沢に挟まれた丘陵上に立地する中世城館。2つの郭で構成され、5重の堀切や多段の帯郭が認められます。中国産青磁・白磁・染付、瀬戸美濃・越前焼など、室町時代後期の陶磁器が採集されています。城主については、千葉檀正の名が伝えられており、深浦の古刹円覚寺には檀正が愛用したとされる茶臼が残されています。



### 武壺植神社・船絵馬19

祭神武壺植命。元和年間(1615~23)の創建と伝えられ、江戸時代には毘沙門宮と称されていました。社殿には近世の船絵馬があります。



### 森山館(茶右衛門館)20

日本海に突き出した森山崎上に立地する館跡。館主は森山飛騨守季定とされ、天文15年(1546)楡山安東氏・武田(蠣崎)季広に攻められ、落城したと伝えられます。また、江戸時代には小野茶右衛門という武将が住んでいたことから「茶右衛門館」とも称されます。茶右衛門は、横暴な振る舞いゆえに、大間越奉行笹森勘解由に討たれたとされています。



### 大屋家21

西海岸地方を代表する曲屋住宅。豪農大屋氏の先祖は、元禄(1688~1704)ころ南部領七戸村から松神村(深浦町岩崎)に移住したと伝えられます。寛政8年(1796)三河国出身の紀行家菅江真澄が宿泊したことでも知られます。

### 大間越関所跡22

秋田藩との境界大間越にあった弘前藩の口留番所(関所)。碇ヶ関・野内とともに津軽三関の1つ。海岸に突き出た高地に位置し、山手には御仮屋・町奉行所・御蔵などの施設もありました。番所には町奉行2人が4ヶ月交替で詰めたほか、町同心らの役人が配置され、旅人や運搬される物資を監視しました。参勤交代経路が西浜街道であった当初は重要な位置を占めましたが、羽州街道に変更されると役割が低下しました。



### 御境明神堂跡23

秋田県境付近の山中にあるケヤキ。推定樹齢390年・樹高20m・幹周450cm。慶長8年(1603)津軽・佐竹両藩国境確定に伴う「御境明神宮」を建立した時に植栽されたものと伝えられます。